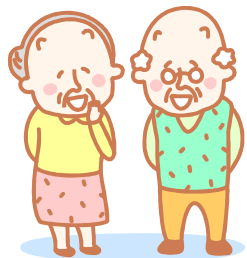


青森テレビ テレビ診察室
「がん診療センター」
の放送内容について

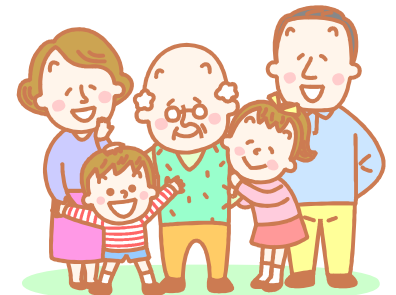
令和3年2月14日（日） 6:30～6:45 放送分

テレビ診察室 がん診療センター



青森労災病院

副院長・がん診療センター長 真里谷 靖



現代社会におけるがん診療

- ▶ 現代の日本で進む少子高齢化は、がんの増加と同時に、家族、親類、知人など旧来存在した人的支援が弱まったことをも意味する。
- ▶ 一方、国の医療への方向付けとして、がんを含めた患者の在宅医療へのシフトという大きな流れが存在する。
- ▶ このような社会背景の中で、がん患者、特に高齢の患者ががん治療を受け、日常生活に復帰していくことはなかなか容易なことではない。

がん治療の進歩

- ▶ しかし一方、がん治療自体は驚くべき速さで進歩している。
- ▶ がんの**ゲノム医療**や**免疫療法**の進歩は、斬新な発想や手法でがん治療を急速に進展させている。
- ▶ **高精度放射線治療**では、がん病巣への線量集中性と周辺臓器への影響低減により、身体に優しい形で放射線が投与出来るようになり、治療成績が向上している。
- ▶ **緩和ケア**の進歩は、投薬、メンタル、看護、社会福祉など様々な方向からの取組みにより、疼痛のみならず精神的、経済的、社会的ストレスなどに悩むがん患者に、苦痛の改善や日常生活への復帰といった大きな福音をもたらすようになった。

医療へのアクセス・問題点

- ▶ それでもなお、一般の方々の多くは、現代のがん診療やケアが身近なものになっている実感に乏しいと思われる。
- ▶ また、診療やケアの実際、そこに到達するルートなどは、一般の方々には分かりにくい可能性がある。
- ▶ 特に高齢者は、変化の速い現代社会では“情報弱者”になりがちで、医療でも不利な立場にある。
- ▶ 逆に、インターネットに氾濫する医療関連の情報は膨大かつ玉石混交で、当事者となった場合には、現役社会人でも情報を整理、理解することは決して容易でない。

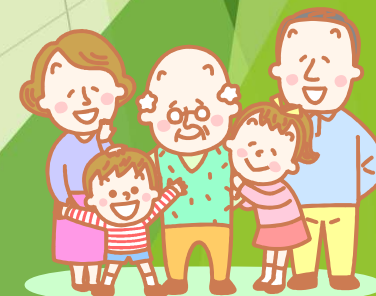
変化するがん診療を身近なものに

- ▶ そこで我々は、地域の皆さんを対象に、当院や連携施設で実施可能な**現代のがん医療**を身近で活用して戴くことを考え、**コンパクトで実践的ながん診療センター**を昨年11月に立ち上げた。
- ▶ そのシンボルが、右の写真に示す**総合窓口**。後述するセンター機能の中枢を担う部署。

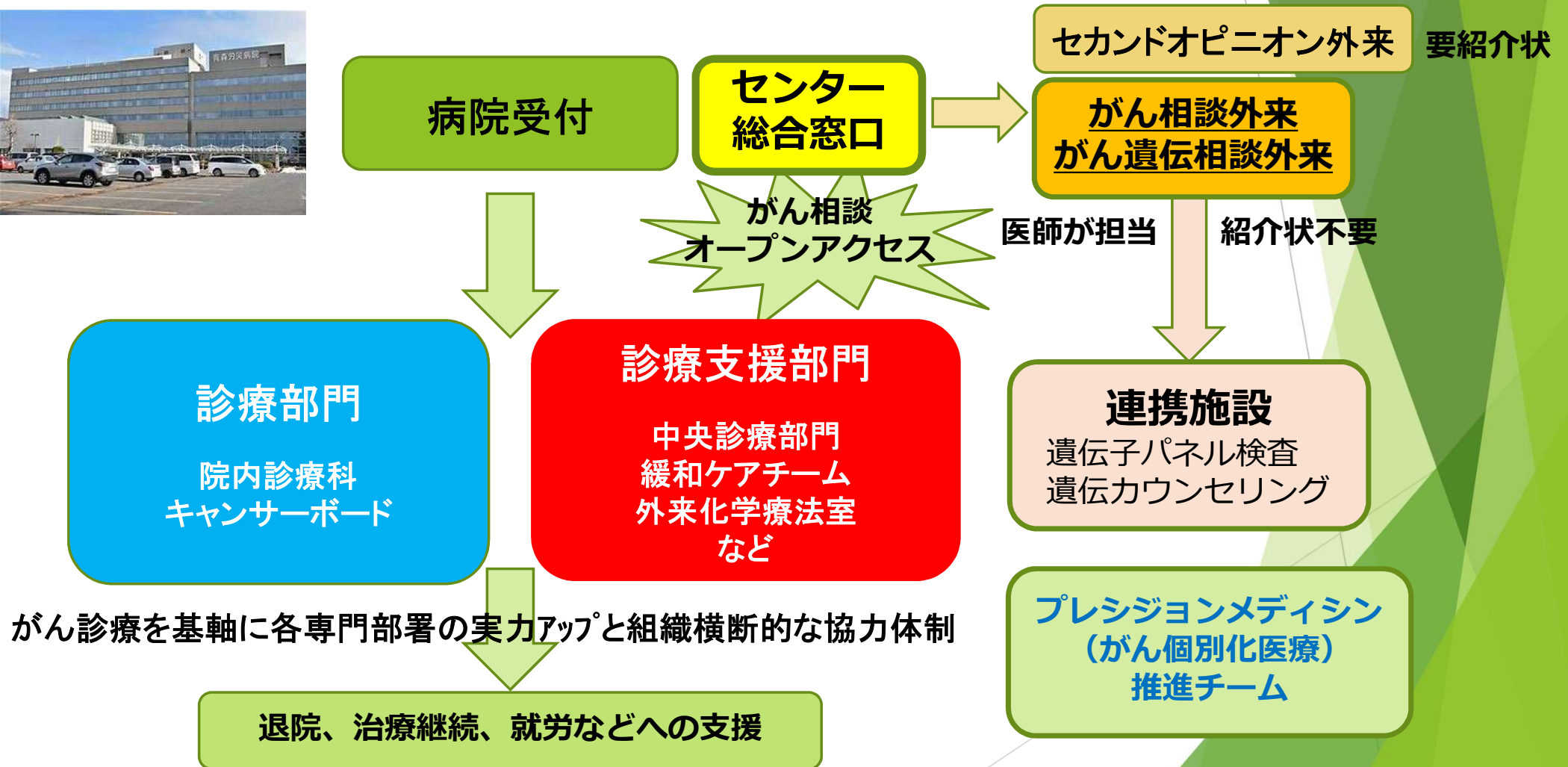


がん診療センターの概要

- ▶ 当院は、地域の中核病院として一般の疾患も扱いますので、通常の診療の流れはこれまで通り維持されます。
- ▶ しかし、これに付加される形で、オープンアクセスのがん診療センター・総合窓口が開設され、がん相談員が配置されました。この窓口は、がんのよろず相談を担当する形で先ずお話を伺い、必要に応じて、専門医師のセカンドオピニオン外来、**新設されたがん相談外来とがん遺伝相談外来**などにつなげます。
- ▶ がん遺伝相談外来では、必要があれば連携施設に協力を要請します。また、院内には**プレシジョン・メディシン推進チームが結成**されました。
- ▶ 一方、既存の診療部門、診療支援部門も院内外での体制強化や再構築を進め、がん診療を基軸に各部署の実力アップと組織横断的な協力体制を形づくりします。



がん診療センターの概要



当院がん診療センターの特徴（１）

- ▶ **総合窓口**には専門の**がん相談員**が配置され、オープンアクセスの体制（直接、電話、FAX、電子メールでの受付）で**がん相談**に対応している（無償）。
- ▶ がん相談の多くは、この段階で解決されている。
- ▶ 窓口で対応困難な場合には、がん専門の担当医師が直接相談にあたる**がん相談外来**が設置されている（有償）。この場合紹介状は不要で、患者自身のみならずご家族のみの相談も可能。
- ▶ 遺伝性腫瘍が疑われる場合などは、**がん遺伝相談外来**が対応する。紹介状は不要。遺伝子パネル検査や遺伝カウンセリングが必要な場合、連携施設に協力を仰ぐ体制も確立されている。



当院がん診療センターの特徴（２）

- ▶ 比較的高齢の患者さんが多く、**低侵襲性**のがん治療を用いる割合が高い。
- ▶ 代表的なものは、**高精度放射線治療**。
- ▶ 例えば限局性前立腺癌の患者さんは、他施設からの紹介も多く、**副作用が少ない**強度変調放射線治療が選択されている。この場合、**外来通院治療**が多い。
- ▶ 定位放射線治療（ピンポイント照射）を用い、**外来通院**や**短期入院**で治療を受ける高齢の患者さんも多く、元気にがん治療を終了されている。



がん治療の潮流

- ▶ 個別の遺伝子検査などに基づく**分子標的治療**や**免疫療法**の比重が、さらに大きくなっていくと考えられる。高齢者に大きな負担をかけない薬剤の登場が期待される。
- ▶ 当院がん診療センターにおいても、**プレシジョンメディシン（がん個別化医療）推進チーム**を結成し、時代に適合したがん医療を目指している。
- ▶ 局所治療としての高精度放射線治療やロボット手術などが、より精密で低侵襲、低リスクとなっていくと思われる。
- ▶ がんの診断・治療におけるAI（人工知能）の活用が進むことが予想される。



がん診療センター・これからの展望

- ▶ 各自が専門性の高いがん診療を究めていくと同時に、県内外のがん診療施設との連携を積極的に図り、不足した部分を補う体制を構築する。
- ▶ **ゲノム医療/プレシジョン・メディシン**あるいは**AI**は、将来のがん医療を変える基軸と考えられる。自施設の実力に見合う形で、その実践を目指していく。
- ▶ 患者、医療者ともにひとである。医療の知識・技術がどんなに進歩しても、**ひと相互のふれあいがない医療に信頼感はない**。オープンな体制で地域の皆さんに直接役立ってこそその当院・がん診療センターであることを忘れず、少子高齢化・地域の過疎化が進行するなかで、**現代のがん診療**に向かっていきたい。

